

I はじめに

(設立)

一般財団法人日本友愛協会は、昭和28年(1953年)に結成された友愛青年同志会を母体とし、昭和34年(1959年)に財団法人日本友愛青年協会(所管文部省)として設立された。平成23年4月に一般財団法人へ組織変更し、また日本友愛協会と名称を変更して現在まで公益事業を継続している。

(目的)

日本友愛協会は、友愛の設立者鳩山一郎先生の意思を昇華発展させ、友愛社会の実現を目指し、青年及び社会人の積極的交流、人間と人間、自然と人間の共生をはかることを目的とし創設された。

(定款 前文より)

(公益事業)

現在、本協会は友愛社会実現のため〈1〉友愛活動の原点であり青年の研鑽の場である「軽井沢友愛山荘」の運営事業、〈2〉機関紙『友愛』の発行を始めとする情報等発信事業、〈3〉オーストリア勤労青年連盟(オーストリア国)・中華全国青年連合会(中国)等との国際交流事業、〈4〉日中緑化交流基金による中国植林事業、〈5〉日本ドイツ歌曲コンクール開催事業、〈6〉一般財団法人東アジア共同体研究所等他団体への協力事業を行っている。

II 概況

総括

今年度の事業実施の特徴として、昨年度より力を入れてきた国際交流事業に大きな発展があったことが挙げられる。とりわけ、オーストリア勤労青年連盟（ÖJAB/エヤップ）へ友好50周年を記念し理事長を中心とする訪奥団を派遣し、新たな友好協定に調印したこと。また、北京理工大学に於いて「友愛講演会」を行い、その感想文を奨学金対象とし募集・表彰したことは、特筆に値する。

これまで順調に運営を続けてきた軽井沢友愛山荘事業も、通年営業が周知されたこともあり、記録的な収益を得ることができた。友愛山荘の現地運営を担当しているスタッフ諸氏の努力の賜といえる。

植林事業では、昨年度以来すべての植林現場に理事長が赴き、植林活動のみならず関係諸氏、現地の方々との交流の機会を作り、その友好関係を深めることができた。永年中国側窓口として信頼関係にある中国国際青年交流中心とも、更に深い友好の絆が結ばれたといえる。

また、記録すべきこととしては、四半世紀にわたり開催を続けてきた「友愛ドイツ歌曲（リート）コンクール」は、本年度限りでその運営を一般財団法人ドイツ歌曲普及協会に委ね、今後の発展を見守ることとなった。

いずれの事業も、実施にあたっては月例理事会に諮られ、全ての事業の要となる理事会は本年度も滞りなく開催され、順調に運営された。

事業別

<1> 軽井沢友愛山荘運営事業は、グランドピアノを含むピアノ三台の設置と、多目的研修施設「友愛ホール」の存在が有効に働き、音楽関係者の利用増につながった。併せて現地スタッフの努力が、多くの方の再利用につながった。結果、昨年を上回る一千五百万円を超える記録的営業収益を得ることができた。

<2> 情報発信事業に於いては、機関紙『友愛』の発行（第535号～540号）

を始め、ホームページの更新、改良など、活動内容の迅速な情報発信に努めた。友愛講演会の教科書として用いられた『友愛雑感』を編集発行し、北京理工大学の学生からよせられた「私にとって友愛とは」の日本語版及び中国語版を編集発行した。特に「私にとって友愛とは」(中国語版)は、植林現場に於いても友愛の理念の理解の一助となるべく配布された。

< 3 > 国際交流事業では、本協会にとって記念すべき大きな二つの事業が実施された。一つは、友好50周年を記念しての「訪壘団」の派遣である。鳩山由紀夫理事長・川手常務理事以下の団員が、オーストリア勤労青年連盟(エヤップ)を訪問、記念式典に出席し新たな友好協定に調印した。滞在中「核兵器拡散防止に関するフォーラム」を開催、国連の機関であるCTBT O包括的核実験禁止条約機関を訪問するなど、有意義な活動を行った。

二つ目は、北京理工大学に於ける「友愛講演会」の開催である。川手常務理事の執筆による『友愛雑感』を教科書に、川手常務理事が自ら、北京理工大学日本語学科の学生に二日間にわたり講演を行った。国外に於いて「友愛」の理念を講演するという、本協会初の機会に恵まれた。実施にあたっては、北京理工大学及び国際青年交流中心の多大な協力を得た。また、講演後に奨学金給付の対象となる感想文「私にとって友愛とは」を募集したところ、見事な作品が多数寄せられた。これを小冊子(日本語版・中国語版)にまとめ、機会ある毎に配布することで、更なる友愛理解がなされるものと期待される。

次年度は鳩山由紀夫理事長による「友愛講演会」を予定しており、北京市内の大学生の多くに呼びかける予定である。

この他、ベトナムへの車椅子贈呈事業、友愛国際写真コンクール事業も関係各位の協力を得て、順調に実施された。ミャンマー指導者育成プロジェクトは、先方の希望を取り入れ、効果的な研修が行われるよう検討するとして、今年度の実施は見合わせた。他にも江西省吉安市 王少玄市長の来訪を受け、懇親会が開催されるなど、活発な活動を行った。

< 4 > 日中緑化交流基金による中国植林事業は、①遼寧省錦州市義県 ②陝

西省宝鷄市麟游県 の二か所を申請し、承認された。両事業地とも第一期にあたり、次年度の実施も予定されている。(①、②の起工式及び植林訪中団の派遣は、現地気候条件から、次年度4月に実施予定である)

<5>友愛ドイツ歌曲(リート)コンクールは、本年度は「日本ドイツ歌曲コンクール」と改称し、一般財団法人ドイツ歌曲普及協会と共同開催した。四半世紀にわたって実施を続けてきた本事業ではあるが、本財団としてはその役割を終え、ドイツ歌曲の普及を活動の中心に据える一般財団法人ドイツ歌曲普及協会に今後の運営を委ねることとした。最後の開催にあたって、これまで協力をいただいた審査員各位はじめ関係各位に感謝状が贈られた。本コンクール開催に尽力され、エヤップとの友好のきっかけも作られた故中嶋信行理事の夫人中嶋テル子さんが、はるばる久留米より上京され理事長より感謝と労いの言葉が贈られた。壇上で鳩山由紀夫理事長と一般財団法人ドイツ歌曲普及協会内田由利子理事長が握手を交わし、つつがなく本事業は一般財団法人ドイツ歌曲普及協会に受け継がれた。

<6>他団体への協力事業としては、例年通り公益社団法人日本けん玉協会の実施する「けん玉ペインティングコンテスト」に冠賞を提供し、表彰式には川手常務理事が出席した。また、ベトナムへの車椅子贈呈事業に於いては、東アジア共同体研究所と協力し、事業の実施にあたった。その他各協力団体への連携を密にし、友好的な関係を保っている。

まとめ

以上が平成27年度の概況であるが、国際交流に軸足をおいた活動は大いに発展の様相を見せている。就中、国外における「友愛講演会」は、歴史的ともいえる事業で、今後も継続的に実施されることを期待したい。

Ⅲ 事業別報告

1、友愛山荘運営事業

(定款第4条第1号、第2号に基づく事業)

事業概要

社会の人々への「友愛」の普及、啓発をはかり、心身の健全発達に資する場としての友愛山荘の運営を行う。一般社会に広く開放することにより、世代を越えた交流を促す。ゼミ・研修会・親睦会・合宿等の利用に適した施設を安価な利用料金にて提供する。

(1)利用状況

	延べ宿泊人数	総売上金額
平成27年度	1,755人	15,023,950円
前年比	98%	104%
《参考》		
平成26年度	1,788人	14,374,680円
平成25年度	1,563人	11,879,196円
平成24年度	1,453人	10,153,031円
平成23年度	1,242人	8,712,233円
平成22年度	1,441人	10,682,075円
平成21年度	1,316人	10,087,175円
平成20年度	1,224人	9,446,185円
平成19年度	1,016人	6,559,020円

(2)運営費用状況

人数・売上	利用人数(人)	売上総額(円)
26年度	1,788	14,374,680
27年度	1,755	15,023,950
前年比(%)	98	104

主要経費	食材仕入(円)	リネン経費(円)	燃料経費(円)	水道光熱費(円)
26年度	2,945,499	655,706	545,989	3,466,075
27年度	2,954,027	652,434	394,330	3,275,055
前年比 (%)	100	99	72	94

一人当り経費	食材仕入(円)	リネン経費(円)	燃料経費(円)	水道光熱費(円)	経費計(円)
26年度	1,647	366	305	1,938	4,256
27年度	1,683	371	224	1,866	4,144
前年比 (%)	102	101	73	96	97

27年度の一人当たり経費平均増減率 97%

(3)設備改修等

①ユニバーサルデザイントイレ導入

友愛山荘本館に「ユニバーサルデザイントイレ」完備。

友愛ホールには既に取り入れられていたが、本館には無く、要望も多かったことから設置した。「ゆったりトイレ」と名付け、男女兼用どなたでも利用可能。

手摺り（縦型と横型及び可動式サイド）も取り付け、車椅子でも方向転換できる広さがある。



②敷地外周フェンス等交換・改良

イ) フェンス交換工事

- ・既存のフェンスの老朽化に伴い旧フェンスを撤去し、軽井沢町推奨のフェンスに交換
- ・フェンス設置にあたっては、隣家との境界線を再度確認することができた。



ロ) テニスコートネット改修工事

- ・現行より1m高いフェンスを架設
- ・隣接する他家の敷地に、ボールが入ることの無いよう、他家と接している面のフェンスのみ高いフェンスを架設した。



(4)広報・広告等

①『The部活』(中学・高校生向けの情報誌)に広告を掲載

- ・秋号「音楽特集号」10月31日発行
- ・都内1,200校に配布(中学800校・高校400校)
- ・掲載料金 B5判1ページ カラー 129,600円(税込)
- ・カラー1ページ抜き刷り広告 5,000部



広告データ買取り 70,200円(税込)

- ・この広告による直接的な効果は得られなかったが、
- 一、友愛山荘の特徴・使い方などを網羅した広告が出来上がった。
- 二、出版社の好意で、他の媒体(プログラム等)に利用できる。
- 三、抜き刷りをつくったことで、訴求対象に直接働きかける等の付随的効果があった。



②インターカレッジ女声合唱団 第7回定期演奏会の当日プログラムに山荘の広告を掲載

- ・『The部活』に掲載した内容をA4判に拡大して掲載
- ・平成28年2月26日(金)杉並公会堂 大ホールにて 発行約1,100部
- ・掲載料金 A4判1ページ カラー 40,000円(税込)



③ 広報

イ) 友愛山荘パンフレット・価格表・友愛山荘紹介カードをセットにして、関連施設等に設置、配布を依頼。

ロ) 友愛山荘紹介カードは名刺サイズで小さい為、持ち歩きが簡便であると好評である。



ハ) 冬季限定優待カード作成配布

晩秋から冬の期間の利用者が減少することから、本協会役員(理事・評議員・顧問・参与)及び関係各位に優待カード(名刺サイズ)を配布し、利用を促した。若干の利用は見たものの、優待カードの配布による効果は大きいとは言えない。次年度も配布を続け、利用を促すことが必要である。



表

使用上の注意

必ず事前にお電話にてご予約ください
 ゲスト1名様1泊2食付8,000円 1室5名様まで同室
 本券1枚につき1人1泊 (団体利用の方はお申し出ください)
 有効期限:平成27年9月1日～平成28年3月31日
 表面にご紹介者のご署名をお願いします
 友愛山荘印の無いものは無効
 本券は現金との換金・売買は出来ません
 一般財団法人 **日本友愛協会**
 〒112-0002 東京都文京区小石川1-10-13
 TEL.03-5684-3188 FAX.03-5684-3186
 http://yuaiyukai.com

裏

2、情報等発信事業

(定款第4条第1号、第6号に基づく事業)

事業概要

機関紙『友愛』の発行、ホームページでの情報開示(事業報告等を含む)及びリーフレットの作成、配布などを通じ、本協会の実施事業、実施目的などを広く伝達し、友愛理念についての理解を深める一助とする。

(1)機関紙『友愛』の発行

- ・機関紙『友愛』は、順調に6回発行された。
- ・理事長が参加した事業に関しては、随時理事長の執筆による記事が掲載され、直接的に読者に呼びかけることができた。
- ・投稿・寄稿もあり、読者に馴染みを持たれていることが伺える。

◆ 平成27年度機関紙『友愛』発行履歴

平成27年5月(第535号) 4,000部発行

- ・第35回定例理事会
- ・第9回臨時評議員会 開催
- ・ウィーンへの意気込み 照屋篤紀
- ・クリミア訪問記… 理事長 鳩山由紀夫
- ・浄空法師様友愛山荘へ
- ・友愛 ほんだな 井上綾子著『恐竜ギフト』
鳩山友紀夫 他 著 『なぜ、いま東アジア共同体なのか』
- ・友愛山荘にユニバーサルデザイントイレ完成

平成27年7月(第536号) 4,000部発行

- ・第10回定時評議員会 開催
- ・友愛クラブ最終例会開催
- ・ÖJAB 友好50周年記念訪問 友好関係合意書調印
日頃の小さな懸け橋を育てたい… 理事長 鳩山由紀夫
- ・懐かしのウィーンで新しい体験… 国立音楽大学准教授 本島阿佐子

平成27年9月(第537号) 4,000部発行

- ・第26次友愛植林訪中団派遣 鳩山由紀夫名誉団長が綴る報告記
- ・友愛植林訪中第26次訪中団に参加して… 東北大学経済学部4年 秋山俊樹
- ・友愛山荘での一日 友愛ならではの出会いを体験… 茨城県 外山茂登子
- ・第13回文部科学大臣賞けん玉ペインティングコンテスト表彰式開催
- ・憧れのウィーンで故郷の歌を… 照屋篤紀

平成27年11月(第538号) 4,000部発行

- ・第26回日本ドイツ歌曲コンクール 本選会出演者決定
- ・北京理工大学における「友愛」講演会開催
友愛のもとで「百年樹人」を… 北京理工大学外国語学院日本語文学科長
北京理工大学大学院日本語文学専攻長
周 晨亮
友愛の輪… 北京理工大学日本語学科教授 郭 玉傑
- ・ベトナムへの車いす贈呈プロジェクト 贈呈式開催 鳩山由紀夫理事長参列
- ・軽井沢友愛山荘 馬頭琴演奏会開催
- ・友愛ほんだな 番外編 映画「FOUJITA」

平成28年1月(第539号) 4,000部発行

- ・巻頭言 理事長 鳩山由紀夫
- ・第26回日本ドイツ歌曲コンクール本選会 結果発表
- ・第2回 友愛国際写真コンクール表彰式開催 附録 受賞作品紹介
- ・青年海外協力隊発足 50周年記念に寄せて … 理事 奥田吉郎

平成28年3月(第540号) 4,000部発行

- ・北京理工大学に於ける「友愛講演会」奨学金対象感想文 受賞作品掲載
「私にとって友愛とは」の選考を終えて… 理事長 鳩山由紀夫
感想文の選考にあたって… 常務理事 川手正一郎
- ・ウィーン出発を前に 文化も音も香りも全て吸収したい… 宮下大器

◆送付先

会員・関係各位団体等 : 1,352箇所(参考前年度1,367箇所)に郵送

また、軽井沢友愛山荘、鳩山会館等関係各所にて配布している。

関係団体へ送付し、配布を依頼。

海外関係先へ送付、配布依頼(中国国際青年交流中心等)。

(2)ホームページの公開・更新

- ・随時ホームページを更新した。写真を多用し、「見て解る」活動内容の掲示に努めた。
- ・友愛山荘利用者、日本ドイツ歌曲コンクール参加者に対して多大な情報発信効果が認められた。
- ・「第2回友愛国際写真コンクール」は、すべてインターネットを利用しての応募、人気投票であったため、ホームページが活用された。
- ・機関紙『友愛』バックナンバー(第1号～最新号[539/540号])の掲示が完了しており、『友愛』発行毎に更新が行われている。

ホームページアドレス <http://yuaikyokai.com>

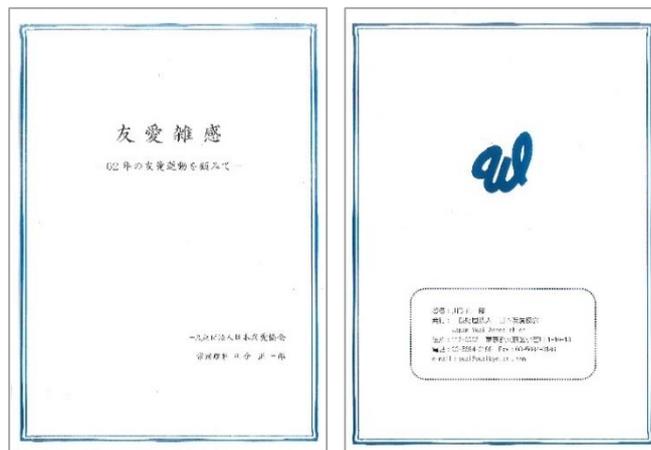
メールアドレス yuai@yuaikyokai.com

(3)発行・配布等

①『友愛雑感』

北京理工大学に於ける「友愛講演会」の開催時、川手常務理事執筆の『友愛雑感』を教材として学生に配布した。

- ・今後中国語訳・英訳などを検討中
- ・友愛活動の歴史をまとめたものとして評価されている。



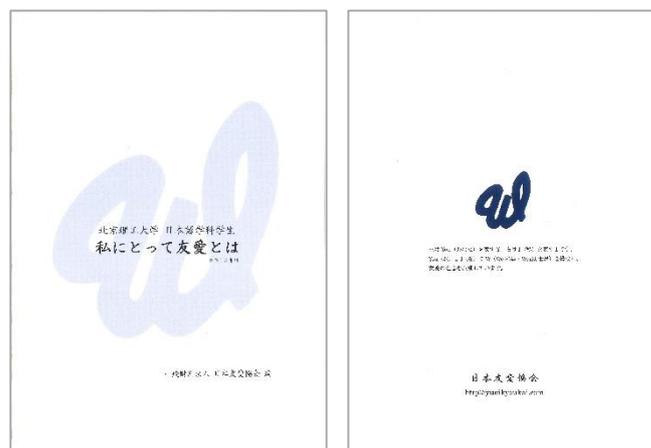
表

裏表紙

②『私にとって友愛とは』

北京理工大学に於ける「友愛講演会」奨学金対象感想文の内、受賞作品を冊子にした。その内容の素晴らしさと日本語の見事さを紹介すべく関係各位及び植林訪中時に持参し配布した。

また、平成28年4月13日北京に於いて開催される表彰式で、日本語版と中国語版を配付する。



日本語版表紙

日本語版裏表紙



中国語版表紙

中国語版裏表紙

左边字母“Y”代表“You（你）”。右边字母“I”代表“I（我）”。
You（友）和I（爱）构成W（We 我们・World 世界），体现友爱理念。

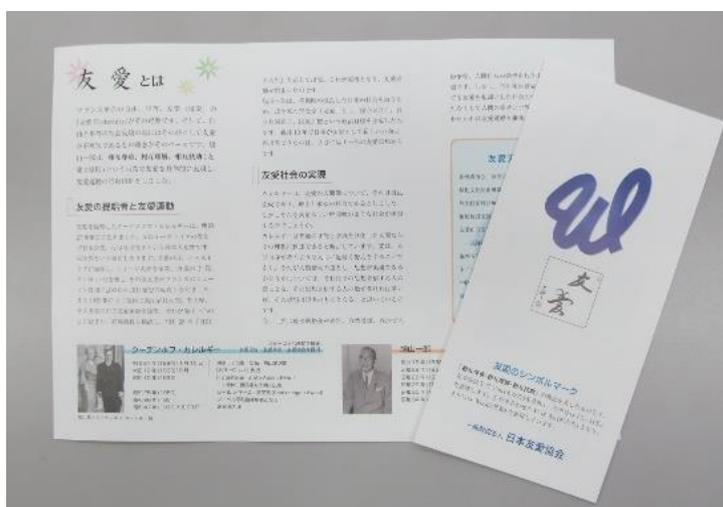
中国語の友愛ロゴ説明

③その他

イ) リーフレット『友愛とは』の配布

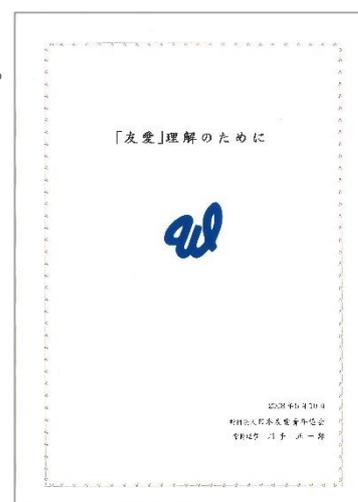
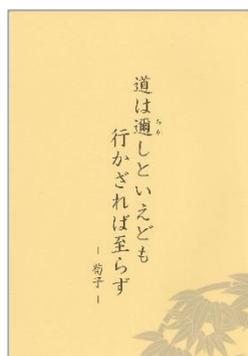
入会希望者等に郵送及び、友愛本部(東京事務所)、鳩山会館等で配布した。植林訪中時に持参、中国の学生に配布した。また、エヤップ訪問時のフォーラム等でも配布

- ・友愛を簡単に紹介する資料として有効であることから、今後英訳・中国語訳を検討中である。



ロ) 友愛解説冊子『「友愛」理解のために』、卓話記録『道は邇しといえども行かざれば至らず』の配布

希望者に郵送及び、友愛本部(東京事務所)等で配布した。植林訪中時に持参、中国の学生に配布した。



3、国際交流事業

(定款第4条第3号、第5号、第6号に基づく事業)

(1)派遣事業

①演奏会開催のための派遣

事業概要

- ・本協会及び一般財団法人ドイツ歌曲普及協会が開催する日本ドイツ歌曲コンクール第1位受賞者をウィーンに派遣し、姉妹団体オーストリア勤労青年連盟(ÖJAB)主催の演奏会に出演させ、芸術活動を通じた日奥交換を実現する。
- ・ウィーンへの渡航費用を本協会が負担し、さらにオーストリア勤労青年連盟(ÖJAB)の協力を以って、滞在期間全8日間の宿泊場所、ドイツ歌曲のレッスン、音楽会への出演の機会を提供する。

①-A

イ) 派遣者

照屋篤紀さん

武蔵野音楽大学声楽科卒業。武蔵野音楽大学大学院修士課程修了。平成26年度文部科学大臣賞・第25回友愛ドイツ歌曲コンクール優勝。日本R.シュトラウス協会賞及び聴衆者賞受賞。

ロ) 滞在期間

平成27年6月21日～6月28日

ハ) 実施内容

平成27年6月23日

アントニオ・ヴィヴァルディホールにてオーストリア勤労青年連盟主催の演奏会に出演。

(平成26年度事業ではあるが、平成27年に実施される、「ÖJAB・友好50周年記念訪奥団派遣」の事業の一環として開催された。)

ニ) 協力機関

姉妹団体：オーストリア勤労青年連盟 (ÖJAB)

※ウィーン滞在中の宿泊先を提供



照屋篤紀さん出演の演奏会チラシ



表現豊かに歌い上げる照屋篤紀さん



共演者と照屋篤紀さん（写真中央）

①-B

イ) 派遣者

宮下大器さん

東京藝術大学声楽科卒業。東京藝術大学大学院修士課程3年在学中。平成27年度文部科学大臣賞・第26回日本ドイツ歌曲コンクール優勝。シューベルト歌曲賞受賞。

ロ) 滞在期間

平成28年3月29日～4月7日

ハ) 実施内容

平成28年4月6日

アントニオ・ヴィヴァルディホールにてオーストリア勤労青年連盟主催の演奏会に出演。

ニ) 協力機関

姉妹団体：オーストリア勤労青年連盟（ÖJAB）

※ウィーン滞在中の宿泊先を提供

（平成27年度事業ではあるが、実施が平成28年度にかかるため、詳細は28年度事業報告書にて報告予定）

②エヤップ訪問団派遣

ÖJAB友好50周年記念訪奥団派遣

平成27年6月12日(金)から6月25日(木)まで

(第一陣12日から19日/第二陣15日から25日)
日本友愛協会とオーストリア勤労青年連盟(エヤップ)の友好50周年を記念して、友愛訪奥団がウィーンを訪問した。

50周年記念式典『懸け橋』を始め、多くの行事に参加(核拡散防止に関するシンポジウムやウィーン市長主催レセプション出席)、友好の絆を強めた。

エヤップとは新たに友好協議書を作成、今後も友好関係を続けて行くことが確認された。

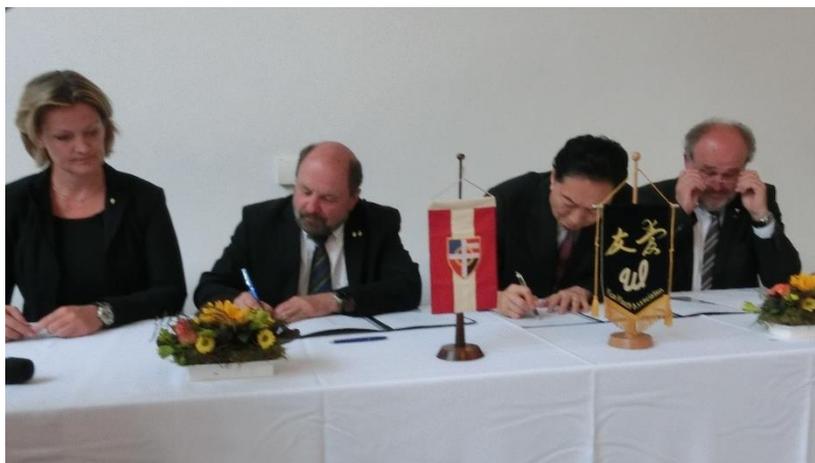


記念式典プログラム

訪奥団団員名

(敬称略・順不同) 鳩山由紀夫・鳩山幸・川手正一郎・戸澤英典・高橋啓三・島崎照代・三ツ石潤司・本島阿佐子・ヨズア・バルチュ・原俊子・川手祥右・高橋佳大・羽中田元美(事務局)・河口ハルトマン・ミヒャエラ(通訳)

記念式典—友好協議書調印



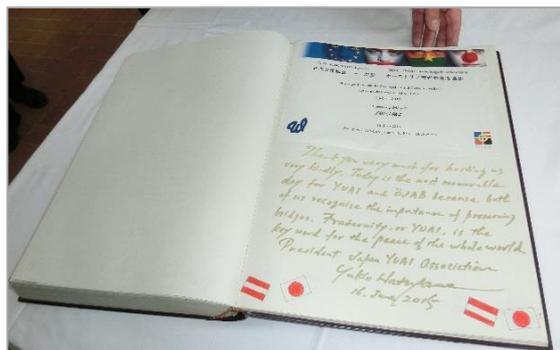
友好協議書に調印。右からピンマー専務理事、鳩山理事長、ペルコビッチ会長、シュスラー事務局長



友好50周年記念の楯



友好協議書にサインを済ませ、鳩山理事長(写真右)、ペルコビッチ会長(写真左)と記念撮影



エヤップが用意したサイン帳にメッセージを添えて鳩山理事長が署名。次ページに全員が署名した



会場の前で、団らんのひととき。古くからのエヤップ会員も集い、和気藹々の雰囲気

在オーストリア日本大使訪問



在オーストリア竹歳誠大使を訪問のため日本大使館へ

源流を訪ねて



青山光子の墓に献花。立派なお墓の立ち並び、眺めの良い丘の上。全員で真っ赤なバラを捧げた



エヤップ初代会長ブッフヴィーザ氏のお墓にもお参りした。お墓というより、小さな一軒家の雰囲気です立派なものであった

包括的核実験禁止条約機関 CTBTO訪問



CTBTOゼルボ事務局長と。土曜日にも拘わらず、丁寧に案内して下さった



ウィーンには多くの国連関連の本部、支部がある。万国旗がたなびく広場は、平和の象徴



ウィーンにある国際機関のひとつCTBTOの前で記念撮影



ゼルボ事務局長を囲んで、懇談。友愛の精神で、世界中から核兵器を無くしたいと鳩山理事長



世界中から送られてくるデータ、情報を瞬時に表示。世界のどこで、放射能濃度が上がったのか解る



細かい研修を終え、一同で記念撮影。全ての情報が集まり、分析されている様子に、感心した



CTBTOの取り組んでいる問題について、詳しく解説を受ける。核実験が無くなることを目指して

核兵器拡散防止に関する パネルディスカッション実施

エヤップと日本友愛協会の共同開催事業として、地元学生等によるパネルディスカッションが開催された。鳩山理事長の英語による基調講演の後、学生からは活発な質問が寄せられた。その活動内容から、国際的にも評価の高い、クメント軍縮軍備管理不拡散部長も出席、格調高いものとなった。



荘厳で華やかな佇まいのクロースターノイブルグ修道院。広大な敷地は、手入れが施され見事な庭園といえる。院内の展示物は、世界的にも価値の高いもので、歴史を物語る。貴重な場所を見学できた



豪華で落ち着いた雰囲気の会場。三十年來という暑さには閉口したが、それを上回る熱意に感動した。講演しているのはクメント部長



核兵器拡散防止に関するパネルディスカッションは、歴史的絵画に囲まれた一室で行われた



日本から同行の大学生も、資料提供などを通じて、現地学生と交流。修道士の衣装も見事であった



ウィーンの高校生の、核兵器に対する認識の高さに驚かされた。国の取り組みを考えさせられた

エヤップ本部訪問



エヤップの正面玄関で。平和を願う古い舌（ぜつ／教会の鐘の音を出す部分）が飾られている



シュスラー名誉会長の執務室。ブルキナファソの領事館も兼ねる、治外法権特殊な空間となっている



シュテファン大聖堂の美しくも力強い迫力。ハプスブルク家の墓所であり、ウィーンの観光名所

返礼晩餐会開催

友愛一行は、エヤップより心を尽くしたおもてなしを受けた。その返礼として、理事長主催の晩さん会が、シュテファン大聖堂を間近に観る会場で開催された。

会場では旧知の友人として話が盛り上がり、和気あいあいとした雰囲気にも包まれていた。派遣団に参加の音楽家の方々が即興でコーラスチームを編成、歌のプレゼントを行った。



ドイツ歌曲コンクールの審査員の先生方による、混声合唱団。俄仕立てとは思えない見事な調和で



シュテファン大聖堂を横に見るレストランで、返礼晩餐会を開催。理事長の挨拶に皆笑顔で応えた

ウィーン市長訪問



ウィーン市庁舎の屋根に輝く、金色のエンブレム「騎士の像ラートハウスマン」がプレゼントされた



お土産の甚平を羽織ってご機嫌のホイブルウィーン市長。迫力のある話し振りに、圧倒される



重厚な造りの市庁舎レセプションルーム。日章旗とオーストリア国旗が飾られて

一忙中有閑一



中世衣装に身を包み、街を一回り。夜回りといっても午後9時を回ってまだ明るい街で、タイムスリップ



マリア・テレジアイエローと呼ばれる黄色の城が、真っ青な空に映えて鮮やかな美しさを誇っていた



村の青年達が、ステップも軽やかに踊りながら歌って歓迎。小川のせせらぎと鳥の声が調和する

(2)受入事業

ミャンマー指導者育成プロジェクトの実施

事業概要

アウンサンスーチー議長より依頼を受け、友愛の理念のもと、「全ビルマ学生連盟外交委員会日本」と「ミャンマーニューリーダーを育成する会」と協力し、NLD（国民民主連盟）から派遣された研修生に、ミャンマー発展に資する指導者としての必要な研修の場を与え、その活動を支援するものである。

事業目的

ミャンマーの主たる産業が農業であることから、農業に関する知識、技術を日本の文化や考え方、生活に触れながら学ぶ機会を設けること。

研修後は自国において、日本で学んだことを伝え実践するよう努める。

研修を通して日本について理解してもらい、今後のミャンマーとの友好関係を緊密なものにする役割を担ってもらう。

事業実施

平成27年度はミャンマーの国政状況や日本側の受入れ施設検討などの問題もあり、「全ビルマ学生連盟外交委員会日本」と「ミャンマーニューリーダーを育成する会」との話合いの結果、今年度はNLD（国民民主連盟）からの研修生の受入れを見送った。

(3)交流事業

①友愛国際写真コンクール

事業概要

・「友愛」「平和」「緑(環境保護)」「人と自然」をテーマに、写真コンクールを行う。

・近年、携帯電話、インターネットの普及に伴い、中国における写真に対する興味が増加している。日本においてもインターネットへの写真掲載は容易となり発展している。

これらを踏まえ、植林事業において永年カウンターパートとして協力関係を続けている中華全国青年連合会（中国国際青年交流中心）との関係をこの事業を以って継続し、日中友好を築くこととする。

・国籍を問わず応募者を募り、友愛の理念を広め、世界平和、環境保護に対する世界の青年および成人の認識を呼び起こす契機となる。

実施内容

- ・中国国内においては、中華全国青年連合会（中国国際青年交流中心）が核となり、インターネットを利用した募集、管理を行う。
- ・日本国内においては、ポスターを作成し各大学等に掲示を依頼する。
- ・日本友愛協会ホームページ上に、コンクール開催を掲示し募集する。
- ・両国とも受付窓口は、インターネットによるものとし、中華全国青年連合会（中国国際青年交流中心）が行う。
- ・投票サイトを開設。日本語・中国語・英語にて掲載。
- ・応募締め切り後、日中両国の審査員によって、審査を行う。
- ・審査終了後日、中国（北京）において、展示会及び表彰式を行う。

募集テーマ

「友愛」「平和」「緑(環境保護)」「人と自然」

応募資格

国籍を問わず、年齢13歳以上45歳以下の者

応募規定

自作、未発表の作品をインターネットで応募すること
紙焼き等の応募は不可

期間

応募期間：2015年6月10日～7月31日（8月31日まで延長）

作品審査：2015年9月下旬～10月中旬

表彰式：2014年11月18日

応募総数

2015年6月10日から8月31日までの応募期間に、寄せられた作品は約4,000点強。内日本からの投稿者は10名程。



配布・掲示用ポスター

応募参加の国々

世界21ヶ国

日本側審査員

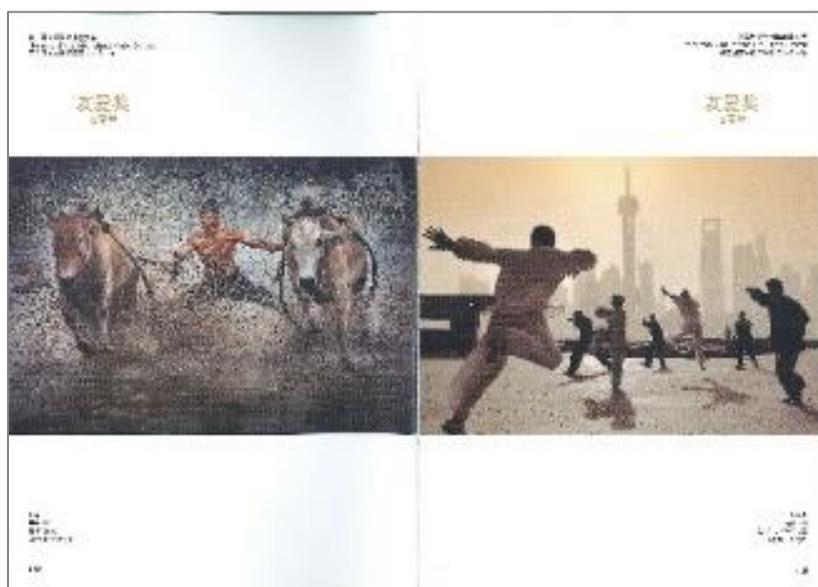
新藤健一(写真家) …表彰式参加

石渡菜々子(写真家) …表彰式参加

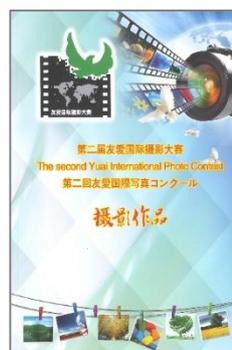
日本友愛協会理事

受賞作品

専門賞(芸術写真として完成度の高いものに一等から三等の賞)、友愛賞、優秀賞、友好参加賞、ネットユーザー人気賞、携帯写真賞(携帯電話で撮影したもの)等、部門毎の賞を設定し、中国側審査員5名、日本側審査員2名及び日本友愛協会理事会の厳正なる審査の結果、約40点が受賞作品に選ばれた。



中華全国青年連合会(中国国際青年交流中心)作成の冊子
表彰式時に配布された



各賞及び賞金

専門賞	1等賞 (1名)	6,000元 × 1名	= 6,000元
	2等賞 (3名)	3,000元 × 3名	= 9,000元
	3等賞 (5名)	2,000元 × 5名	= 10,000元
	優秀賞 (10名)	500元 × 10名	= 5,000元
友愛賞	2名	5,000元 × 2名	= 10,000元
ネット人気賞	1等賞 (1名)	3,000元 × 1名	= 3,000元
	2等賞 (3名)	1,000元 × 3名	= 3,000元
	3等賞 (5名)	500元 × 5名	= 2,500元
携帯賞	クリエーション賞 (30名)	100元 × 30名	= 3,000元
	感動賞 (30名)	100元 × 30名	= 3,000元
優秀組織賞	1団体	3,000元 × 1団体	= 3,000元
友好参与賞	19名		賞品
		金額計 57,500元 (1元≒19円 約 1,100,000円)	

表彰式



今年も素晴らしい作品が集まりました。日中友好、友愛の心が広まる様にと挨拶。鳩山由紀夫理事長



前回に引き続き、木寺昌人在中国特命全権大使がご出席くださり、祝辞を賜った

賞状と賞金のパネルを授与。友愛賞の受賞者二名と笑顔で写真に応じる鳩山由紀夫理事長





羅梅共青团中央書記所書記・中華全国青年連合会副主席(右端)も作品を見学。友愛賞受賞者と歓談。



大きなパネルには賞金額が記されている。嬉しそうに受け取る受賞者、川手常務理事も嬉しそう！



日本側審査員・写真家の石渡菜々子さん(左端)もプレゼンターを務めてくださった



出席の学生、受賞者に囲まれて写真を撮る。全員が理事長と一緒に写したいと、もみくちゃに



日本側審査員・写真家新藤健一さん(右端)と鳩山理事長ご夫妻。中央は日本の原昌宏さんの受賞作



中国国際青年交流中心 洪桂梅副主任(前列中央)も、協力して成し遂げた喜びの笑顔に溢れている

②ベトナムへの車椅子贈呈事業

一昨年、鳩山由紀夫理事長がベトナム・ハノイ市にあるプックラム国際総合病院を訪問した際、枯葉剤やダイオキシンの影響で、障害を負ってしまった子供たちのハンディを軽減するための車椅子が、著しく不足していることを知り、日本友愛協会として出来ることをとの考えから、車椅子を贈るプロジェクトを起案、理事会にて承認され、交流事業として実施された。

二度目となる車椅子贈呈式が平成27年9月24日、ベトナム・フンエン省エコパークにて行われた。

今年の贈呈式がテレビ等にも取り上げられ、関係機関の中で評判になり、今回贈った50台の車椅子は「枯葉剤患者救済プログラム」の一環として、ハノイ市、ダナン市、ドンナイ省(南部)、バグザン省(北部)、ゲイアン省(中部)、ザライ省(中部)、クアンチ省(中部)など各地の関係機関に寄贈された。

贈呈式には障害を持つ子供たちとその保護者はもちろん、障害のある退役軍人や関係者が大勢集まり、昨年同様、歌や踊り、詩吟の朗読等や政府関係機関責任者の熱い思いがこもったスピーチの歓迎を受けた。中でも、自身が障害者でありながら、障害者のための事業を展開し、実業家としても有名な、歌手グエン・ティー・トゥオンさんの明るく力強い歌声には列席した人々が大いに感動した。車椅子は、本協会のロゴマーク入りステッカーを貼って贈呈した。





車椅子贈呈式で挨拶する鳩山由紀夫理事長。
多くのメディアが集まり、期待の大きさを伺
わせる



歌手のグエン・ティー・トゥオンさんと
手を握りながら話を。彼女の歌声に多く
の人が感動した



車椅子の子どもたちと、か
がんで話をする鳩山由紀夫
理事長。活動範囲が増え、社
会生活向上を願う



壇上に並べられた車椅子。贈られた子どもたちもその親御さんも、関係者も、全員が
笑顔に溢れて

③来日交流事業

A 浄空法師による講話会開催

平成27年5月6日(水)

友愛山荘に浄空法師をお迎えした。

浄空法師(御年88歳)は、中国の著名な高僧で、友愛山荘に設置し好評を博しているパオを、ご寄贈くださった方である。

鳩山由紀夫理事長 幸夫人とのご縁から始まり、今ではご夫妻が敬愛する師であり父とも仰ぐ思いで親交を重ねている。

鳩山由紀夫理事長は、戴いたパオが、緑輝く友愛山荘で大いに活躍をしているところをご覧いただくために、浄空法師を山荘にお迎えした。加えてご夫妻とのご縁から、講話をお聞かせいただけることとなった。



パオを背に緑の芝生で。パオの内部も詳細に見学され、学生たちがパオの中でミーティングを行っていることをお伝えすると、とても喜んでおられた



浄空法師の講話の前に、鳩山由紀夫理事長が挨拶。浄空法師とのご縁、集まってくくださった方々への御礼を述べた。私も今日の講話を楽しみにしておりますと



友愛ホールで浄空法師の講話を聞く会が開催された。遠方からの方、近隣の方々、皆興味津々でお話に聞き入った。質問も多く、一つ一つに浄空法師は丁寧にお答えになられた



川手正一郎常務理事(写真右)も駆けつけ、浄空法師(写真左)と熱心に話を



山荘ロビーで『友愛』を手にもつて、くつろがれる浄空法師ご一行



浄空法師からのお土産はたくさんあった。その一つ、魚の泳ぐ鉢



お土産の陶器の鉢。中の魚(鯉)が水を張ると正に泳いでいるかの如く見える



完全菜食の浄空法師のために、山荘スタッフの努力の結晶。精進料理の数々



工夫を凝らした甲斐あって、浄空法師は、全ておいしいと

B 江西省吉安市 王少玄市長 来日

12月8日(火)江西省吉安市の王少玄市長が来日し、鳩山由紀夫理事長を表敬訪問した。吉安市は、多くの日本企業を誘致し、活発な経済発展を続けている市で、王市長も更なる発展を目指し、日本企業を訪問する予定。日本友愛協会とも友好関係を結びたいとの訪問である。



積極的な誘致活動をしている王少玄市長は、友愛の植林活動についても言及、是非吉安市で植林活動をしていただきたいと語った。鳩山由紀夫理事長もそれに応え、何らかの活動を行いたいと語るなど、前向きな意見交換が行われた



王少玄市長以下、皆さん迫力溢れ精力的である



江西省は、陶磁器で有名な「景德鎮」を産する、景德鎮市がある。歴史と風光明媚な省である、とりわけ吉安市は毛沢東先生に由来する歴史も多く、是非いらしてほしいと王市長

④パオの展示

本協会は、鳩山由紀夫理事長より寄贈を受けたパオを、国際交流事業の一環として友愛山荘敷地内に展示し、外国文化に触れる機会を提供することとし、平成25年8月8日より展示を行っている。

パオはモンゴル遊牧民の移動住居である。実際に現地で使用される物を展示していることから、生活の実際を垣間見ることができる。

また本年度より併せて、資料としての衣類(民族衣装)、家具などの展示を開始した。

大学生のゼミ合宿の際など、グループ毎のミーティングをパオの中で行うなど、パオが創り出す空間が人気を呼んでいる。

本協会として国際交流の実態を示すよう下記の趣意書をパオの内部、友愛山荘玄関ホールなどに置き、宣伝に努めている。

《趣意》

国際交流の一環として包(パオ)を日本の多くの方にご高覧いただき、外国文化に触れ、相互理解の一助になれば幸いと存じ、軽井沢友愛山荘に展示します。



友愛山荘の庭、テニスコート寄りに
二基のパオを設置、展示を続けている



パオの一基は、資料展示室として設営



手入れの甲斐もあり、パオは雪の重さにも耐えた

⑤友愛講演会事業

北京理工大学における「友愛講演会」開催

9月21日、22日の二日間に亘って、日本友愛協会国際交流事業の一環として、北京理工大学に於いて「友愛講演会」が開催された。

海外に於いての「友愛講演会」は、本協会にとっても新たな歴史が刻まれたこととなる。

北京理工大学は、北京市内2か所のキャンパスに三万人を擁する大学で、それぞれのキャンパスの周辺は、付属幼稚園を含め、小学校、中学校、高校もあり、学校関係の人々が生活するすべてが揃っており、ひとつの街を作り上げている。同大学には、日本語学科があり、今年度から3カ年計画で、日本語による受講感想文を基に、奨学金を提供する。

今回は、『友愛雑感』『友愛理解のために』を基に、川手常務理事による「友愛」の解説を中心に、茶道文化を伝える講演、日本側大学生による「同世代情報交換交流」などが行われた。



北京理工大学校舎「德以明理 学以精工」大学の理念が掲げられている。全校で三万人の学生が学ぶ



李京廉学院長(右)と奨学金の契約書に調印。三年間に亘り、友愛講演会の感想文を基に提供する



北京理工大学からの感謝状



川手常務理事の話に、熱心に質問する学生が多い。学ぶ姿勢は真摯で素晴らしい学生たちだ



自身が設計した建物の解説から日本建築の特徴まで、見事にデータを纏めて発表した川手祥右さん



日本の就職活動事情を軸に、大学生の実態を明るく発表。日本に誘うデータも添えた高橋佳大さん



仮に作った茶室「無境庵」で羽中田事務局長補佐が茶道を紹介。学生も積極的に挑戦し、お茶もお菓子も大好評だった



参加の学生から贈呈された花束を手に、川手常務理事を囲んで記念撮影。左端は、周教授

◆北京理工大学に於ける「友愛講演会」奨学金対象者感想文の選考

・講演会に参加した学生から「私にとって友愛とは」の題で感想文を募ったところ、二十数編が寄せられた。

(入賞作品6編は、機関紙『友愛』第540号に全文掲載)

・北京理工大学日本語学科の周教授、郭教授を始めとする教授陣の選考を受けた二十編が日本友愛協会に届けられた。

この二十編を理事、監事、評議員長を審査員とし、百点満点で採点。更に中国国際青年交流中心の王部長、羊課長の採点も加え厳正な審査が行われた。

いずれの作品も素晴らしい出来映えで、審査員を大いに悩ませたが、結果6名の受賞者が選出された。

・平成28年4月13日、北京に於いて開催される表彰式で、日本友愛協会より奨学金と賞状・記念品が贈られる。

受賞者紹介



第1位
徐嘉熠さん(4年生)



第2位
李雅婕さん(4年生)



第2位
毛嘉怡さん(2年生)



第3位
張小潔さん(4年生)



第3位
賈茹楠さん(4年生)



第3位
張亜男さん(4年生)

*写真は入選者各自より提出されたものを掲載

4、日中緑化交流基金による中国植林事業

(定款第4条第2号、第4号に基づく事業)

事業概要

日中緑化交流基金を活用し、中国における植林活動を行う。環境保全に貢献し日中友好を目指す。併せて交流の機会を設け広く友愛の理念を伝える機会を得る。実施においては、中華全国青年連合会(中国国際青年交流中心)を中国側カウンターパートとし、日本からは広く募集をかけ参加者を募り、訪中団を結成し中国に派遣する。

《平成27年度事業》

- 1) 第1期日中青年遼寧省義県生態緑化モデル林
第1期日中青年陝西省麟遊県生態緑化モデル林

*上記2プロジェクトの起工式、植林訪中団の派遣は、土壤凍結等の都合から平成28年4月に第27次友愛植林訪中団を派遣し、実施予定している。
*本事業報告書では、平成27年7月に実施した第26次植林訪中(平成26年度事業)に関する詳細を報告する。

- 2) 第26次植林訪中団派遣・起工式実施

(期間) 平成27年7月14日～21日

(植林地) 遼寧省錦州市, 遼寧省盤錦市, 山西省臨汾市

(中国側カウンターパート) 中華全国青年連合会、遼寧省錦州市青年連合会
山西省臨汾市青年連合会、遼寧省盤錦市青年連合会

(訪中団員) 名誉団長 鳩山由紀夫理事長

団長 川手正一郎常務理事

団員 鳩山 幸(鳩山由紀夫理事長夫人)

川手祥右(東京工芸大学建築学科4年生)

高橋佳大(城西大学経営学部4年生)

秋山俊樹(東北大学経済学部4年生)

羽中田元美(事務局長補佐)

- ◆第3期 日中青年遼寧省錦州市生態緑化モデル林
(日中緑化交流基金からの助成金) 1,460 万円
(植林面積) 120 ヘクタール
(植樹数) 90,000 本
(植樹種) 碧玉ポプラ

実施の成果

このプロジェクトの地は凌海市大凌河流域に所在する。事業の実施により当該地域の環境が改善でき、生態環境の回復、水源の涵養、水質の改善という効果が上げられる。

林木が少なく、荒れた河川は多く、しかも林木の分布は均等でない。またいずれの樹木も、老化がすすみ、水源が減少し、水質が悪化する状況にある。

このプロジェクトの実施により、水源涵養林になり、効果的に水源の流量と水質を改善することで、徹底的に状況を変え、砂漠化と水土流失を抑制し、防護の機能を高め、水源を蓄える目的が実現できることとなる。

- ◆第3期 日中青年臨汾市生態緑化事業
(日中緑化交流基金からの助成金) 1,340 万円
(植林面積) 95 ヘクタール
(植樹数) 310,000 本
(植樹種) 側柏(コノテガシワ)

実施の成果

事業地は国道に近く、交通条件には恵まれているが、歴史的また人為的な原因(伐採)により、土地が痩せており、水土流失が深刻である。

事業実施により、土壌条件を改善し、地域の気候条件を調節しうる林を作るという目的を果たせる。

また、現地の人々、特に青少年の生態環境保護意識を高め、環境保護への良い社会雰囲気をつくり、向上させることができた。

事業実施の過程で、日中両国の青少年における交流・協力など、新たな交流の機会を与えることとなり、両国間の民間友好関係を促進するには重要な役割を持ったと言える。

- ◆第1期 日中青年遼寧省盤錦市生態緑化モデル林事業
(日中緑化交流基金からの助成金) 950 万円
(植林面積) 30 ヘクタール
(植樹数) 51,000 本
(植樹種) 柳、ポプラ、金葉榆

実施の成果

海に近い港地域であり、生態環境は非常に脆弱で、土地の塩類土化も進んでいる。事業実施を通じて、地域の生態環境を徐々に改善し、気候を調節し、土地の塩類土化を食い止め、社会・経済の持続的可能な発展と住民の生活レベルの向上が期待できる。

また、現地住民が植林活動に積極的に参加し、日中青年間の交流・協力を強め、両国友好関係の健全な発展を促すことができた。

参 考

15 年間で訪中回数は 26 回

東京 23 区面積 62,000 ヘクタール

内日本友愛協会が担当実施した面積：3,310 ヘクタール

文京区・千代田区・中央区の面積に匹敵

遼寧省錦州市盤錦



盤錦市植林現場、記念式典で、一人一人に思いを込めて挨拶。鳩山由紀夫理事長



遅れての到着にも拘わらず、大きな円卓に、名物の鍋料理が湯気を上げ皆さん待ってくださった



盤錦市の植林現場の大きな記念碑。母なる河を護る活動と書かれ、日本友愛協会の名が刻まれている



植え付けの終わった盤錦市の植林現場。ポプラの苗が、元気に若葉をだしている



鳩山由紀夫理事長は、日本と中国の関係、植林に懸ける思いなど、思いの丈を熱く語った



記念植樹も丁寧に。植え終わった後、十分な水を施し、強く大きく育てと成長を願う



盤錦市自慢の景勝地。右上にはマツナの紅が広がり、手前には緑豊かな稲の絵が描かれていた



盤錦市植林現場記念碑の前で、友愛第二十六次訪中団一行が揃って記念撮影



乾いた土のポプラの苗を心配そうに見つめる鳩山由紀夫理事長。この後何杯もバケツで水やりを



最近では珍しい程大きな、錦州市の記念碑。日本友愛協会と中華全国青年連合会の名がハッキリと

山西省臨汾市



臨汾市の植林現場。既に地元の方々の手で、多くの苗が植えられている



崩れやすい土壌のため、一本一本岩で囲いを造り、土壌の流失を防ぎながら苗を植えている



臨汾市の植林地に集まったボランティアの青年たち。友愛訪中団と力を合わせ頑張ろうと誓った



臨汾市の植林現場での記念式典。川手正一郎団長が挨拶。向こうの山々がいずれ緑に覆われる日が



地元のボランティアの方々と、肩を組んで。高齢の方も、積極的に植林活動に参加しているとのこと



中国国際青年交流センターの事務所で。友愛と協力して事業を行ってくださっている方々、皆元気だ！



第26次植林訪中団員の秋山俊樹さんの参加感想文は、『日中緑化交流基金だより』にて紹介された

* 機関紙『友愛』第537号既報

にある、内蒙古大学の学生であった。学生が、多倫県に帰ってきたことがわかったので、呼びかけて、一緒に手伝ってくれているそうだ。それにしても、女子の多いことに、びっくり。

このように、若い世代が植林活動に自主的に参加していることに、その意識の高さや主体的な動きに、改めて感服。その学生とともに、苗木を植えるために、等間隔に穴を掘り、苗木を運び下し、土を埋め、水をバケツ一杯かける作業を行った。

砂漠地区ではなく、草原地区ではあったが、元々砂漠だったところを草原化し、そこに植えたのであった。この一つ

一つ小さな作業が積み重なり、活着することで、砂漠化が食い止められるのであった。

日程の最終日、北京市内にある中国国際青年交流センターにて、王希宏部長、羊強振科長と面談。王部長は「当センターは全国30か所でのような取り組みがある。特に多倫県は、最も北京に近い。ここで砂漠化を止めなければ、北京も砂漠化の影響がでる。」と、強調。

ぜひ、来年も多くの日本人に声をかけ、一緒に苗木を植える活動で汗をかき、友好を深めたいと認識し、空港への帰路についた。

日本友愛協会による友愛植林訪中第26次訪中団に参加して

東北大学経済学部 4年 秋山 俊樹

互いの顔が見える円卓

今回の訪問で印象に残っているのは、円卓を取り囲んでの食事の風景である。中国の食事の席では、11いテーブルを取り囲み食事をする。訪問中は、中国のスケールの大きさを感ぜさせるような特製の円卓で食事をした。最初に見たときにはその迫力と豪華絢爛の様に息をのんだ。と同時に、丸いテーブルを皆が囲むため一人一人の顔がよく見えることに気づいた。食事中は皆が席を回り一人一人と言葉を交わし乾杯をする。杯をかかずともう気持ちが通じた気分になる。全員が顔と顔をつき合わせる中国式の食事の風習は、人々の距離を埋めることを助ける。最初は緊張して落ち着かない私だったが、同席者の方々と話をしていく中で気も落ち着き、食事を終える頃には皆の顔と名前を覚えていた。

未来を見据えて

顔を向かい合わせるのが食事ならば、植林は、緑豊かな未来、という方向に向かって皆が目標を揃えて行くものだった。中国のボランティアの青年たちと一緒に、シャベルで苗木に土を被せていたときおそろしく私と彼の頭の中では、10年後のこの土地に大きく育った木々の緑が萌える光景を描き、気持ちが一つになっていたのではないだろうか。同じビジョンを持つ者同士、お互いを尊重し、力を合わせて活動している感じがした。現在、両国の間には様々な政治的不安が積たわっている。こうした状況だからこそ、本当に欲しい未来について

顔を付き合わせて議論し共通するビジョンを見つけて、その方向へ向かって手をとり協力することができれば良いと思う。

日本友愛協会の取り組み

政治の場だけでなく民間においてもこの姿勢が求められる。このことを体現している日本友愛協会の日中緑化交流基金による植林事業は、これまでに驚くことに15年間(26回の訪中)も続けられている。日中緑化交流基金の助成で行われた植林面積は東京23区を上回ると聞く。長い間継続されずの太くなった交流に関わることができて私は非常に幸運だった。鳩山由紀夫理事長の果敢な言葉による挨拶、心のもった力強い川手団長の言葉からも、日本友愛協会が植林事業に向き合う様子が伺えた。

日中友好の樹を育てる

参加することができた者の務めとして、こうした素晴らしい活動の存在を皆に知らせると共に、自分たちができることを仲間たちと考え、新たな日中友好の樹を育てていきたい。地理においても歴史のつながりにおいてもとても距離が近い日本と中国だからこそ、良きパートナーとして今後共に未来を創っていけたら良い。それを担う当事者として自分の出来る努力を積み重ねて行きたい。



5、日本ドイツ歌曲コンクール事業

(定款第4条第2号、第5号に基づく事業)

事業概要

青少年及び広く一般の音楽文化に対する理解を深め、ドイツ歌曲を学ぶ声楽家の育成を目指し、声楽家としての活躍の場を得る機会を提供する。併せて音楽文化を以て相互尊重・相互理解・相互扶助の友愛理念を伝えるべく、本コンクールを開催する。国際交流事業実践のため、姉妹団体であるオーストリア勤労青年連盟と協力し、音楽技能の向上、国際的友愛理念の普及を目指し、本コンクールの優勝者をウィーン派遣する。また、今年度はドイツ歌曲の普及を目的とするドイツ歌曲普及協会と共に開催することとし、名称を日本ドイツ歌曲コンクールと改め、一層の音楽文化、ドイツ歌曲の普及を目指すものとなる。次年度からは「ドイツ歌曲普及協会」の単独主催となる。【概況・事業別参照】

(名称)

平成27年度 文部科学大臣賞 第26回日本ドイツ歌曲コンクール

(前 友愛ドイツ歌曲コンクール)

(日程・会場)

第一次予選	10月20日(火)	文京シビックホール	小ホール
第二次予選	10月29日(木)	同	上
本選会	12月9日(水)	同	上

(実行委員会)

実行委員長：島崎照代 運営統括責任者：羽中田元美

実行委員：原 俊子 稲見裕美 稲垣朋子 岩井和子 松村衣梨 橋谷田智史
佐藤慈成 中林真奈 納谷結花 柏井 優 藤井玲南

ドイツ歌曲普及協会より

城守 香 森川由美子 森脇小美子 他3名

(関係機関)

共同主催：一般財団法人ドイツ歌曲普及協会

協 力：オーストリア勤労青年連盟(ÖJAB)

後 援：文部科学省、外務省、オーストリア大使館、ドイツ連邦共和国大使館
日唄文化協会、公益社団法人日本演奏連盟

協 賛：日本リヒャルト・シュトラウス協会
株式会社音楽之友社、株式会社河合楽器製作所

(副 賞)

第1位 賞金 20 万円、第2位 賞金 20 万円、第3位 賞金 10 万円、
奨励賞 賞金 5 万円(学生の部)、日本歌曲賞 賞金 5 万円、
優秀共演者賞 賞金 5 万円、聴衆者賞 賞金 5 万円
日本 R. シュトラウス協会賞 賞金 5 万円、シューベルト歌曲賞 賞金 5 万円

その他第1位受賞者には、副賞として平成28年4月6日ウィーンにて実施されるオーストリア勤労青年連盟(ÖJAB)主催の音楽会出演。また、ウィーンまでの往復航空券を当協会が提供し、オーストリア勤労青年連盟(ÖJAB)の協力を得て8日間のウィーン研修滞在を提供する。

(参加者募集・選考経過)

募集案内は平成27年7月より開始。音楽学校への案内状及び募集要項の送付関係各位への案内、専門誌への広告掲載等を行った。

応募受付期間は、平成27年9月10日(木)～9月24日(木)とした。

応募者総数 計46名(一般41名、学生5名)

・第一次予選出場者：45名(一般40名、学生5名)

[ソプラノ31名、メゾソプラノ5名、テノール3名、バリトン6名]

・第二次予選出場者：24名(一般21名、学生3名)

[ソプラノ15名、メゾソプラノ4名、テノール1名、バリトン4名]

・本選会出場者：11名(一般10名、学生1名)

[ソプラノ4名、メゾソプラノ2名、テノール1名、バリトン4名]

(本選会入場者数) 約200名

(審査員)

小松英典	ドイツ連邦共和国認定終身教授(2次、本選会)
菅英三子	東京藝術大学教授(1次、2次、本選会)
高橋啓三	東京音楽大学教授(1次、2次、本選会)
寺谷千枝子	東京藝術大学教授(1次、2次、本選会)
三ツ石潤司	武蔵野音楽大学教授(本選会)
本島阿佐子	国立音楽大学准教授(1次、2次、本選会)
ヨシア・ハルチュ	武蔵野音楽大学講師・ドイツ語発音法(1次、2次、本選会)
島崎照代	日本友愛協会参与・実行委員長(1次、2次、本選会)

(結果)

- ・第1位・・・・・・・・・・・・・・・・ 宮下大器 (テノール)
 文部科学大臣賞 東京藝術大学大学院在学中
 シューベルト歌曲賞
- ・第2位・・・・・・・・・・・・・・・・ 吉澤 淳 (ソプラノ)
 日本R.シュトラウス協会賞 東京藝術大学大学院在学中
- ・第2位・・・・・・・・・・・・・・・・ 深瀬 廉 (バリトン)
 東京藝術大学大学院在学中
- ・第3位・・・・・・・・・・・・・・・・ 無し (第2位受賞者2名のため)
- ・奨励賞 (学生)・・・・・・・・・・・・ 山本将生 (バリトン)
 武蔵野音楽大学在学中
- ・優秀共演者賞・・・・・・・・・・・・ 該当者なし
- ・日本歌曲賞・・・・・・・・・・・・ 該当者なし
- ・聴衆者賞・・・・・・・・・・・・ 白岩 洵 (バリトン)
 東京藝術大学大学院修了
- ・入 選・・・・・・・・・・・・・・・・ 佐藤 瞳 (ソプラノ)
 東京藝術大学大学院在学中
 小野綾香 (メゾソプラノ)
 東京藝術大学大学院在学中
 細井暁子 (メゾソプラノ)
 国立音楽大学大学院修了
 白岩 洵 (バリトン)
 東京藝術大学大学院修了
 杉原 藍 (ソプラノ)
 東京藝術大学大学院修了
 小原裕之 (バリトン)
 京都市立芸術大学大学院修了
 原 千裕 (ソプラノ)
 東京藝術大学大学院修了

(総括)

- ・本年度の応募者数は46名(一般41名、学生5名)。1次予選当日、体調不良により1名欠場した。本選会へは一般10名、学生1名が進出。もとより学生の応募者は少なかったが、実力は拮抗しており本選会出場の1名については奨励賞授与に相応しい歌唱力であったか否かにおいて審議された。

- ・ 来場者数は昨年より少し少ない200名程であった。
- ・ 審査結果は本選終了後、会場に於いて発表した。
- ・ 文部科学大臣賞は日本友愛協会理事長 鳩山由紀夫が代読し授与した。
- ・ 聴衆者賞は、例年どおり来場者(聴衆)の投票によって選考された。審査員の審議の時間を利用して投票結果の集計を即時会場にて行い、最高得点者を聴衆者賞受賞者として発表した。受賞者は再び舞台に立ちアンコール演奏を行った。
- ・ 審査においては、発音・解釈・表現が重要な要素となる。本年度は実力伯仲の2名を2位受賞とし、3位は無しとした。
日本歌曲賞は審議の結果、対象者の中には賞の授与に値する歌唱力の演奏者がいないとの結論を得、該当者無しとなった。また優秀共演者賞においても該当者無しという結果となった。
- ・ 次年度からはドイツ歌曲普及協会が主体となり本コンクールを引継ぐため、日本友愛協会常務理事 川手正一郎の挨拶のもと、両理事長が固い握手を交わし、ドイツ歌曲普及協会理事長 内田由利子氏が挨拶の言葉を述べた。
- ・ 最後に、審査員の先生方始め、実行委員等今日まで本コンクールを支えて来てくださった方々に、理事長、副理事長、評議員長の三名の連名で感謝状と記念品が贈られた。
- ・ 表彰式終了の後、受賞者と審査員との集合写真撮影を行って真にコンクールを終えた。





奨励賞(学生の部) 山本 将生さん



聴衆者賞 白岩 洵さん



創設時にご尽力くださった故中嶋信行理事への感謝を込めて、中嶋テル子夫人に感謝状を贈呈
中嶋さんは久留米から来てくださった



実行委員長島崎照代参与に感謝状を贈呈
全コンクールで審査員を務めた



出演者・ピアニスト・審査員の先生方、日本友愛協会理事長、評議員長、常務理事、ドイツ歌曲普及協会理事長、日本R・シュトラウス協会常務理事、関係者一同揃っての記念撮影。
全員の笑顔が素晴らしい

6、他団体への協力事業

(定款第4条第2号、第7号に基づく事業)

1) 鳩山会館への協力

- ・同会館パンフレットを友愛本部(東京事務所)、軽井沢友愛山荘にて配布
- ・館長/鳩山由紀夫理事長、支配人/長田正太郎監事

2) 鳩山友愛塾への協力

- ・鳩山友愛塾修了生の会開催時に事務局が協力

3) 一般財団法人 人間塾への協力

4) 一般財団法人 東アジア共同体研究所への協力

- ・軽井沢友愛山荘利用にあたって、同法人会員に割引価格提供

5) 核兵器廃絶・平和建設国民会議 (KAKK I N) への協力

- ・同会議会員として参加する。

6) 一般財団法人尾崎行雄記念財団への協力

- ・同財団会員として参加する。
- ・鳩山由紀夫理事長が同財団副会長を務める。
- ・鳩山邦夫副理事長が同財団顧問を務める。
- ・谷藤悦史評議員が同財団評議員、萩原直三評議員が同財団理事を務める。

7) 公益財団法人日本補助犬協会への協力

- ・東京事務局及び友愛山荘内に募金箱を設置。
- ・鳩山由紀夫理事長が同協会の名誉顧問を務める。

8) 一般財団法人日本けん玉協会への協力

- ・同協会主催「第13回 けん玉ペインティングコンテスト」に「日本友愛協会賞」および「団体賞」を提供し、賞金として総額6万4千円を拠出した。



日本友愛協会賞の賞状 本人の作品が印刷された、日本けん玉協会独自のデザイン



受賞式を終えて、川手常務理事、受賞者の大岩大輝さんと、ご両親を交えて、全員笑顔の記念撮影



松永義希会長より、抱えきれない大きさのトロフィーを受ける文部科学大臣賞の桑原悠樹さん

IV 業務執行

1、理事会開催

第36回臨時理事会

開催日：平成27年4月24日（金）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、友愛山荘事業、ミャンマー指導者育成プロジェクト

第37回臨時理事会

開催日：平成27年5月27日（水）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、友愛山荘事業、
「ÖJAB 友好締結50周年」日程表及び核軍縮パネルディスカッション
関連、機関紙『友愛』第535号発行

第38回通常理事会

開催日：平成27年6月23日（火）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、友愛山荘事業、
平成26年度事業報告・平成26年度計算書類
平成26年度公益目的支出計画実施報告
「ÖJAB 友好締結50周年」記念訪問事業、友愛国際写真コンクール、
その他、奥住 壽 前監事ご逝去5月26日
大川米子 評議員ご逝去5月31日の報告

第39回臨時理事会

開催日：平成27年7月30日（木）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、友愛山荘事業

第40回臨時理事会

開催日：平成27年9月18日（金）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、友愛山荘事業、

第13回けん玉ペインティングコンテスト、
川手常務理事友愛山荘視察、ベトナムへの車椅子贈呈プロジェクト、
軽井沢町役場生活環境課環境係のフェンス設置に関して訪問・確認、
北京理工大学における「友愛セミナー」開催、友愛国際写真コンクール

第41回臨時理事会

開催日：平成27年10月23日（金）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、友愛山荘事業、ベトナムへの車椅子贈呈プロジェクト、
北京理工大学における「友愛セミナー」開催、友愛国際写真コンクール、
友愛山荘広告掲載、日本ドイツ歌曲コンクール

第42回臨時理事会

開催日：平成27年11月27日（金）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、友愛山荘事業、ベトナムへの車椅子贈呈プロジェクト、
友愛国際写真コンクール表彰式開催、友愛山荘広告掲載、
日本ドイツ歌曲コンクール、
ドイツ歌曲コンクール関係者への「感謝状」及び「記念品」贈呈、
北京理工大学「友愛セミナー」終了後の「奨学金」対象者選定

第43回臨時理事会

開催日：平成27年12月18日（金）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、友愛山荘事業、日本ドイツ歌曲コンクール、
ドイツ歌曲コンクール関係者への「感謝状」及び「記念品」贈呈、
ドイツ歌曲コンクール引継ぎ、
中華全国青年連合会・現江西省吉安市人民政府市長一行来訪、

第44回臨時理事会

開催日：平成28年1月22日（金）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、友愛山荘事業、
北京理工大学「友愛セミナー」終了後の「奨学金」対象者選定、
第27次友愛植林訪中

第45回臨時理事会

開催日：平成28年2月26日(金)

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、友愛山荘事業、植林事業、
「友愛講演会」感想文コンテスト、
平成28年度事業計画案、平成28年度事業予算案

第46回通常理事会

開催日：平成28年3月30日(水)

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、友愛山荘事業、植林事業、
「友愛講演会」感想文コンテスト表彰式、機関紙『友愛』第540号発行

2、評議員会開催

第10回定時評議員会

開催日：平成27年6月23日(火)

場 所：友愛サロン

議 事：平成26年度事業報告、平成26年度計算書類
平成26年度公益目的支出計画実施報告、定款変更に関する件、
任期満了に伴う評議員選任の件、任期満了に伴う理事選任の件
その他、奥住 壽 前監事ご逝去5月26日
大川米子 評議員ご逝去5月31日の報告

第11回臨時評議員会

開催日：平成28年3月30日(水)

場 所：友愛サロン

議 事：平成28年度事業計画、平成28年度事業予算、
その他、新評議員小峰秀子氏挨拶